



Tokyo Metro CI Design System

東京メトロコミュニケーションマーク等使用ガイドライン

東京メトロの商標は、グループの理念である「東京を走らせる力」を表現するとともに、運輸サービスをご利用いただくお客様をご案内することにも用いる、重要なものです。

商標を使用する際は、本ガイドラインを参照し、正しい利用をお願いします。

●コミュニケーションマークと社名ロゴタイプは、必ずDTP用のデジタルデータ、または清刷りを使用し、色見本により基本色を正確に再現してください。 ※DTP：desktop publishing

●規約及び本ガイドラインを参照してもわからない使用方法等については、事前に弊社までお問い合わせください。

問い合わせ窓口：お客様センター

電話番号 0570-200-222

問い合わせフォーム

お問い合わせ | 東京メトロ <https://www.tokyometro.jp>

基本デザインシステム

Basic Design System

P 1	はじめに
P 2	目次
P 3	シンボルマーク／ハートM
P 4	コミュニケーションマーク
P 5	コミュニケーションマーク 基本カラー（コーポレートカラー） 1
P 6	コミュニケーションマーク 基本カラー（コーポレートカラー） 2
P 7	路線記号
P 8	駅ナンバリング
P 9	路線記号 基本カラー
P10	リバース表現
P11	最小余白と最小使用サイズ
P12	背景色ガイド 1
P13	背景色ガイド 2
P14	使用禁止例 1
P15	使用禁止例 2

ハートMのシンボルマークは、基本デザイン要素の中で最も重要な要素であり、あらゆるコミュニケーションの場面で、東京メトロのイメージづくりの「核」として機能するものです。

シンボルマークコンセプト

グループの理念である「東京を走らせる力」に込めたオープン、活き活き、行動力のあるといったイメージをシンボルマーク（Heart M：ハートエム）に表現しました。ハートは東京の中心にあるという存在感と心に響くサービスを提供しようという意志を体現。また、ハートを模したMはMetroの頭文字だけでなく、動きを持たせたことで大都市東京を地下から支えるダイナミックさと躍動感、二つの地点・人と人を結ぶ動き、快適な移動を表現しています。

地図で使用する場合を除き、シンボルマーク単体での使用は行わず、原則次ページに記載しているコミュニケーションマークをご使用ください。



シンボルマークと愛称（東京メトロ）は、常に一体化した「コミュニケーションマーク」として、はじめて東京メトロの企業イメージ形成の旗印として機能します。

コミュニケーションマークコンセプト
シンボルマークの「ボックス」（角に丸みを帯びた四角の矩形）を独自のユニークな特徴と捉え、愛称を入れた同型のボックスを二つ並べることで、より強い「存在感」と「公共交通機関としての安定感」「お客様への信頼あるサービス」を表現しています。

愛称「東京メトロ」、及び「Tokyometro」のボックスカラーには、ブライトブルーを引き立たせるダークブルーを採用し、駅サイン等に求められる視認性にも配慮しています。

ここに示す「コミュニケーションマーク」は、全てのアイデンティティ要素の中で最上位に位置する要素として、東京メトロCIデザインシステム全般に可能な限り使用していきます。
コミュニケーションマークの再現には必ずデジタルデータを使用し、基本カラーを正確に再現してください。



コミュニケーションマーク／和文



コミュニケーションマーク／英文

コーポレートカラーとは、独自の特定期色を企業イメージのカラーとして定め、あらゆるコミュニケーションの場面でコミュニケーションマークの基本的な表示色や、補足的なデザイン要素として、色彩面から東京メトロの企業イメージを形成していく重要な基本デザイン要素です。

コーポレートカラーコンセプト

新会社の理念にある親しみ易さ、アクティブさを考慮し、より鮮やかでエネルギッシュな色として、コーポレートカラーはブライトブルーを設定しました。また、最もお客様との接点の多い出入口サインにおいて、混雑した都会の背景や地下の中でも分かりやすく、高い注目を獲得できることを配慮しました。

コーポレートカラーの再現にあたっては、必ず色見本、または下記に示す近似色により正確に再現してください。

コーポレートカラー／ブライトブルー



近似色

特色印刷の場合／PANTONE 312C

4色プロセス印刷の場合／C 85% Y 15% ※

セカンダリーカラー／ダークブルー



近似色

特色印刷の場合／PANTONE 540C

4色プロセス印刷の場合／C 100% M 75% K 70% ※

※4色プロセス印刷の掛け合わせ数値は参考数値です。

印刷に際しては必ず色見本により、可能な限り正確に再現してください。

コミュニケーションマークは、コーポレートカラーのブライトブルーとダークブルーの2色を基本カラー表示とし、白、または白地に近い背景色に表示することを基本とします。

ただし、2色の基本カラーによる表示ができない場合又はデザイン上単色表示としたい場合（黒のみでデザインする場合に限る。）には、黒を単色表示として使用します。

基本カラーの再現には、必ず前頁の色見本、または近似色により、正確に再現してください。

基本カラー表示／2色表示



ブライトブルー + ダークブルー

単色表示



黒

路線記号は地下鉄をご利用されるお客様へサービスの質的向上を目的とし、地下鉄を分かりやすく表現するため東京都交通局と共同で表示の際に用いる色彩を決定しております。

路線記号の再現には必ずデジタルデータを使用し、基本カラーを正確に再現してください。

なお、黒単色表記は行えません。

銀座線



丸ノ内線



日比谷線



東西線



千代田線



有楽町線



半蔵門線



南北線



副都心線

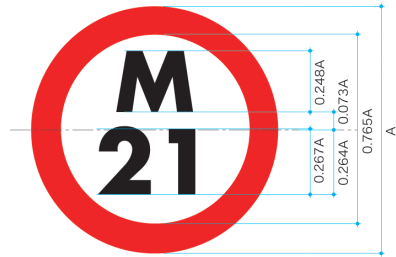


ナンバリングは、外国人や上京者といった地下鉄に乗り慣れていないお客様にわかりやすくご利用いただけるよう、路線を示すアルファベットと2桁の数字を組み合わせて駅固有の番号を表現しています。

これは東京都交通局と歩調を合わせ、全駅の駅名標と車内の単線路線図に表示を行ったものです。

駅ナンバリングの再現には必ずデジタルデータを使用し、基本カラーを正確に再現してください。なお、黒単色表記は行えません。

駅番号



銀座線 路線色：DIC163	丸ノ内線 路線色：DIC158	日比谷線 路線色：DIC548	東西線 路線色：DIC138	千代田線 路線色：DIC132	有楽町線 路線色：DIC334	半蔵門線 路線色：DIC105	南北線 路線色：DIC2575	副都心線 路線色：DIC321
G01 渋谷	M01 荻窪	H01 中目黒	T01 中野	C01 代々木上原	Y01 和光市	Z01 渋谷	N01 目黒	F01 和光市
G02 表参道	M02 南阿佐ヶ谷	H02 恵比寿	T02 落合	C02 代々木公園	Y02 地下鉄成増	Z02 表参道	N02 白金台	F02 地下鉄成増
G03 外苑前	M03 新高円寺	H03 広尾	T03 高田馬場	C03 明治神宮前(原宿)	Y03 地下鉄赤塚	Z03 青山一丁目	N03 白金高輪	F03 地下鉄赤塚
G04 青山一丁目	M04 東高円寺	H04 六本木	T04 早稲田	C04 表参道	Y04 平和台	Z04 永田町	N04 麻布十番	F04 平和台
G05 赤坂見附	M05 新中野	H05 神谷町	T05 神楽坂	C05 乃木坂	Y05 氷川台	Z05 半蔵門	N05 六本木一丁目	F05 氷川台
G06 溜池山王	M06 中野坂上	H06 虎ノ門ヒルズ	T06 飯田橋	C06 赤坂	Y06 小竹向原	Z06 九段下	N06 溜池山王	F06 小竹向原
G07 虎ノ門	M07 西新宿	H07 霞ヶ関	T07 九段下	C07 国会議事堂前	Y07 千川	Z07 神保町	N07 永田町	F07 千川
G08 新橋	M08 新宿	H08 日比谷	T08 竹橋	C08 霞ヶ関	Y08 要町	Z08 大手町	N08 四ツ谷	F08 要町
G09 銀座	M09 新宿三丁目	H09 銀座	T09 大手町	C09 日比谷	Y09 池袋	Z09 三越前	N09 市ヶ谷	F09 池袋
G10 京橋	M10 新宿御苑前	H10 東銀座	T10 日本橋	C10 二重橋前(丸の内)	Y10 東池袋	Z10 水天宮前	N10 飯田橋	F10 雑司が谷
G11 日本橋	M11 四谷三丁目	H11 築地	T11 茅場町	C11 大手町	Y11 護国寺	Z11 清澄白河	N11 後楽園	F11 西早稲田
G12 三越前	M12 四ツ谷	H12 八丁堀	T12 門前仲町	C12 新御茶ノ水	Y12 江戸川橋	Z12 住吉	N12 東大前	F12 東新宿
G13 神田	M13 赤坂見附	H13 茅場町	T13 木場	C13 湯島	Y13 飯田橋	Z13 錦糸町	N13 本駒込	F13 新宿三丁目
G14 末広町	M14 国会議事堂前	H14 人形町	T14 東陽町	C14 根津	Y14 市ヶ谷	Z14 押上(スカイツリー前)	N14 駒込	F14 北参道
G15 上野広小路	M15 霞ヶ関	H15 小伝馬町	T15 南砂町	C15 千駄木	Y15 麴町		N15 西ヶ原	F15 明治神宮前(原宿)
G16 上野	M16 銀座	H16 秋葉原	T16 西葛西	C16 西日暮里	Y16 永田町		N16 王子	F16 渋谷
G17 稲荷町	M17 東京	H17 仲御徒町	T17 葛西	C17 町屋	Y17 桜田門		N17 王子神谷	
G18 田原町	M18 大手町	H18 上野	T18 浦安	C18 北千住	Y18 有楽町		N18 志茂	
G19 浅草	M19 淡路町	H19 入谷	T19 南行徳	C19 綾瀬	Y19 銀座一丁目		N19 赤羽岩淵	
	M20 御茶ノ水	H20 三ノ輪	T20 行徳	C20 北綾瀬	Y20 新富町			
	M21 本郷三丁目	H21 南千住	T21 妙典		Y21 月島			
	M22 後楽園	H22 北千住	T22 原木中山		Y22 豊洲			
	M23 茗荷谷		T23 西船橋		Y23 辰巳			
	M24 新大塚				Y24 新木場			
	M25 池袋							
	M26 方南町							
	M27 中野富士見町							
	M28 中野新橋							

路線記号および駅ナンバリングの再現にあたっては、必ず色見本により可能な限り、再現してください。

銀座線 オレンジ			DIC163 C 0% M 41% Y 95% K 0%
丸ノ内線 レッド			DIC158 C 0% M 97% Y 95% K 0%
日比谷線 シルバー			DIC548 C 22% M 21% Y 27% K 0%
東西線 スカイ			DIC138 C 98% M 0% Y 0% K 0%
千代田線 グリーン			DIC132 C 80% M 0% Y 82% K 0%
有楽町線 ゴールド			DIC334 第13版 C 19% M 34% Y 71% K 0%
半蔵門線 パープル			DIC105 C 48% M 53% Y 0% K 0%

南北線 エメラルド			DIC2575 C 78% M 0% Y 51% K 0%
副都心線 ブラウン			DIC321 C 39% M 74% Y 100% K 0%

近似色
特色印刷の場合
DIC製「DICカラーガイド」見本による。

4色プロセス印刷の場合
4色プロセス印刷の掛け合わせ数値は参考数値です。

印刷に際しては必ず色見本により、可能な限り正確に再現してください。

リバーズ表現は、コミュニケーションマークのボックス及び愛称を入れたボックスそれぞれを白の枠で囲んで表現します。白枠の角は丸みを帯びるような形となるように調整してください。

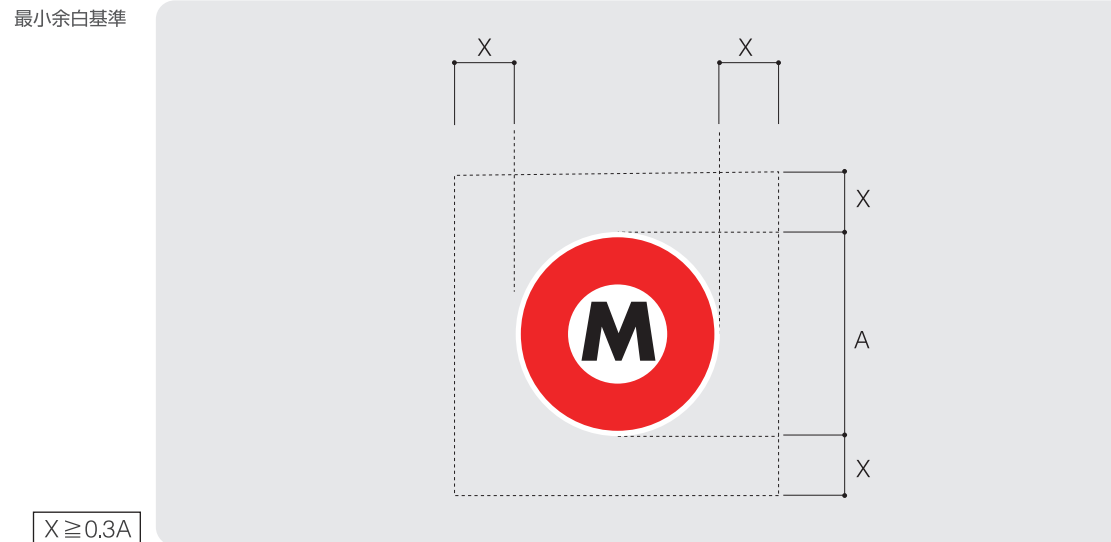
基本カラー表示／3色表示



ブライトブルー + ダークブルー + 白



ここで示す背景色のグレーは、「色の濃い背景色」としての使用例です。



コミュニケーションマークの表示にあたっては、その象徴性や、訴求性の面から、その周囲には他の文字や、図形等の要素がない状態としてください。

最小余白とは、他の要素等から、コミュニケーションマークを隔離、保護し、その独創性を確保するために設定した余白（空間）基準です。

図に示したのは確保すべき最小限度の余白ですが、実際の表示にあたっては、可能な限り基準以上の余白を確保するようにしてください。

コミュニケーションマークの最小使用サイズ

コミュニケーションマークは、ハートMのつづれを回避し愛称の可読性を損なわないよう、最小使用サイズを設定しています。最小使用サイズは短辺が6.5mmです。最小使用サイズ以上で使用してください。また、コミュニケーションマーク以外のマークについても、必ず文字が鮮明になるように印刷してください。



コミュニケーションマーク／小サイズ用

コミュニケーションマークを上記の規定サイズ以下で使用する場合には、コミュニケーションマーク／小サイズ用を使用してください。ただし、小サイズ用においても、最小使用サイズが設定されていますので、規定サイズ以上で使用してください。短辺が6.5mmを下回る使用をしたい場合には、コミュニケーションマーク（小サイズ用）を使用することができます。ただし、コミュニケーションマーク（小サイズ用）であっても、最小使用サイズは短辺が4.5mmとし、これを下回らないで使用してください。



コミュニケーションマーク／小サイズ用の最小使用サイズ



コミュニケーションマークは、印刷媒体等において、規定の背景色（白、または白地に近い色）が使用できない場合や、媒体の目的に応じた効果的な表現が求められる場合には、規定の背景色以外での表示も可能です。下図は、基本カラー表示によるコミュニケーションマークが背景色の濃淡により、リバーズ表現を使用する目安を示しています。

ただし、本項ではリバーズ表現を使用しないコミュニケーションマークについても、必ずハートMと愛称ロゴタイプは白ヌキ、または白を加えた3色表現とします。

リバーズ表現のコミュニケーションマークは、原則としていかなる色調、濃度の背景色でも表示が可能ですが、基本カラーとのコントラス

トを考慮し、可能な限り使用を避けたい背景色も示しています。背景色はここに示す以外の色も想定されますが、ここに示す基準を判断の目安とし、東京メトロのイメージを損ねることのないよう適切に使用してください。適切な背景色であるか否か、判断が難しい場合には、必ず事前に弊社問合せ窓口にお問い合わせください。

コミュニケーションマーク

▶ リバーズ表現使用の目安

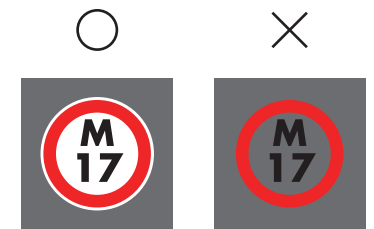
▶ コミュニケーションマークの背景色として使用を避けたいカラー群



背景色の濃度

▶ リバーズ表現使用の目安

路線記号及び駅ナンバリング
白以外の背景の場合には必ずリバーズ表現にしてください。

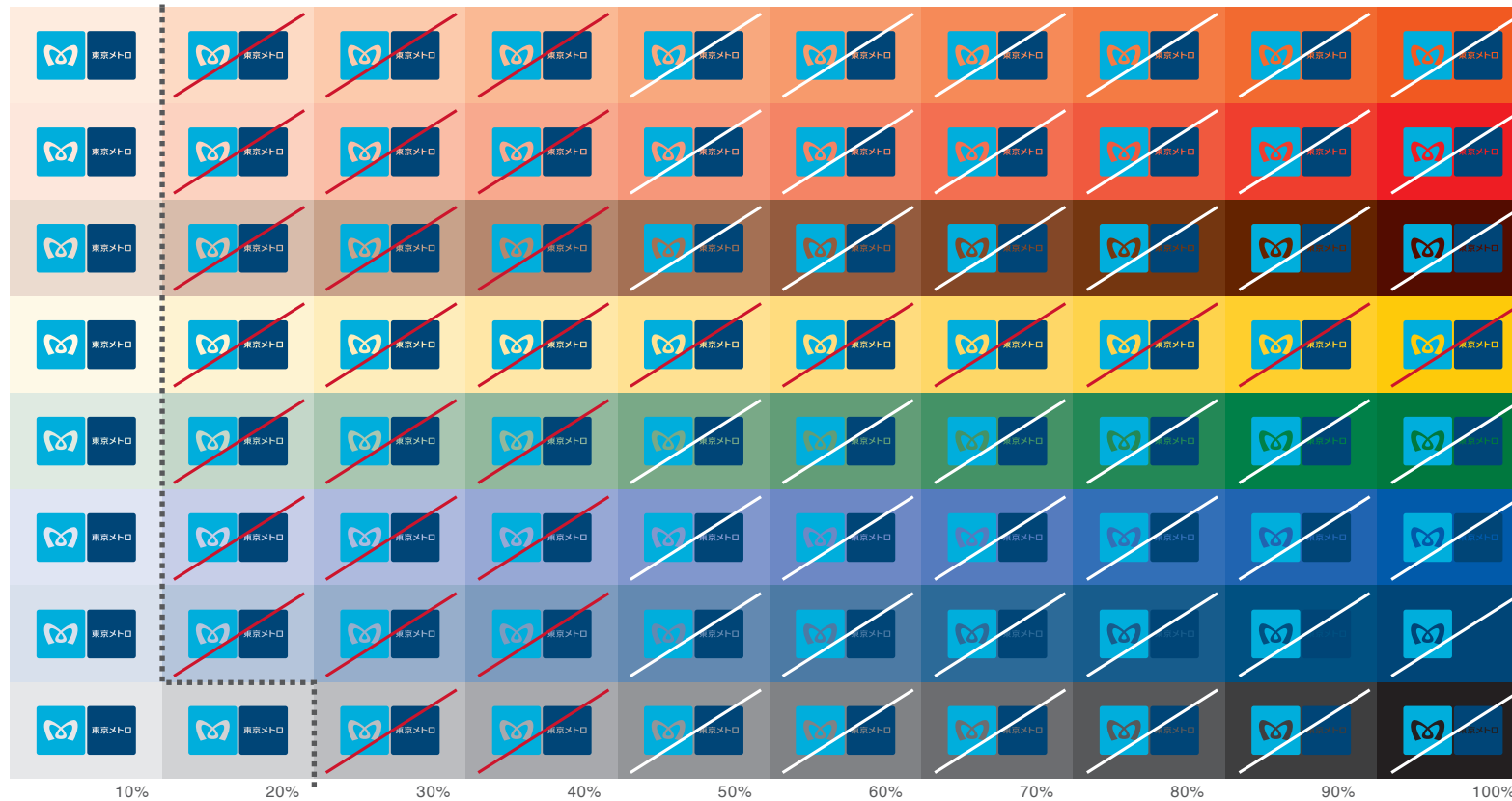


白を加えた3色表示によるリバース表現、またはハートMと愛称ロゴタイプを白ヌキで表現できないコミュニケーションマークの場合は、下図に示すように背景色は白地に近い色に限定されます。したがって濃度の高い背景色に表示する場合には、必ずハートMと愛称ロゴタイプを白ヌキで表現するか、またはリバース表現としてください。（2-05参照）

背景色はここに示す以外の色も想定されますが、ここに示す基準を判断の目安とし、東京メトロのイメージを損ねることのないよう適切に使用してください。適切な背景色であるか否か、判断が難しい場合には、必ず事前に問合せ窓口にお問い合わせください。

コミュニケーションマーク

▶ 基本カラー表示／2色表示によるコミュニケーションマークの背景色として使用できないカラー群



背景色の濃度

コミュニケーションマークの誤った使用は、イメージの統一性を損なうだけでなく、見る人に誤ったイメージを伝えてしまうことになるため、絶対に行わないでください。

ここでは使用禁止例の一部を示していますが、ここに示す以外の誤った表示と思われる場合や、判断しかねる場合には、必ず事前に担当部署に確認してください。



コミュニケーションマークの表示順序を変えてはならない。



コミュニケーションマークを長体、平体、斜体等に変形してはならない。



コミュニケーションマークのデザイン要素を拡大、縮小してはならない。



デザイン要素の位置を変えてはならない。



コミュニケーションマークの組合せ間隔を変えてはならない。



愛称ロゴタイプの書体を変えてはならない。



愛称ロゴタイプ、またはハートMを外してはならない。



コミュニケーションマークを傾けてはならない。



リバーズ表現にアウトラインを付けてはならない。



コミュニケーションマークをポジティブに表現してはならない。



不適切な解像度で使用してはならない。



印刷媒体においては、影や立体化等の表現を付けてはならない。



枠で囲んではならない。



コミュニケーションマークとスローガンや、特定のメッセージ等を組み合わせてはならない。※



最小余白の範囲内はもとより、範囲外であっても印象の強い要素を近くに表示してはならない。

※ただし、アイテムの目的、表現上の効果として、併記する必要がある場合には、担当部署に確認の上、最小余白の基準に準じて表示してください。

コミュニケーションマークの誤ったカラー表現は、コミュニケーションマークの識別性が損なわれるだけでなく、見る人に誤ったイメージを伝えてしまうことになるため、絶対に行わないでください。

ここではコミュニケーションマークのカラー表現における禁止例の一部と適切な表現の事例を示しています。ただし、ここに示す以外のカラー表現での使用可否の判断が難しい場合には、必ず事前にお問い合わせください。

禁止例



正しい表現



基本カラーで表示。



煩雑さの低い背景に表本カラーで表示。

禁止例



正しい表現



リバース表現のコミュニケーションマークで表示。



コミュニケーションマークの識別性を損なわない明るい背景色に基本カラーで表示。



リバース表現のコミュニケーションマークで表示。



コミュニケーションマークの識別性を損なわないシンプルな図柄や明るい背景に基本カラーで表示。